

冠動脈CT

社会医療法人天神会新古賀病院 心臓血管・リズムセンター | 川崎友裕

はじめに

2003年に臨床の場に登場した冠動脈CTは冠動脈の病変診断にとどまらず近年ではAIを用いた機能的診断までもが非侵襲的に行えるようになり、冠動脈病変診断の主流は侵襲的冠動脈造影CAGから冠動脈CTに移行し(図1)、CT装置のさらなる進化とともにますますその診断性能の向上が期待されている。さらには近年の冠動脈CTを用いた大規模臨床試験の結果により、日常診療での安定冠動脈疾患(本稿では以下CCSとする)の診断における冠動脈CTの有用性が更に高まってきている。

このような背景のもと、CVIT2023初日の第4会場では「冠動脈CT」をテーマにした多くのプログラムを展開する予定であり、その内容を以下に概説する。

CT-1：CT-first時代を迎えて～CCS診断ガイドラインのフォーカスアップデートにより何が変わった?どう変わった?

2022年のCCS診断ガイドラインのフォーカスアップデートで「CT-first」といえる診断アルゴリズムが提唱され(図2)、

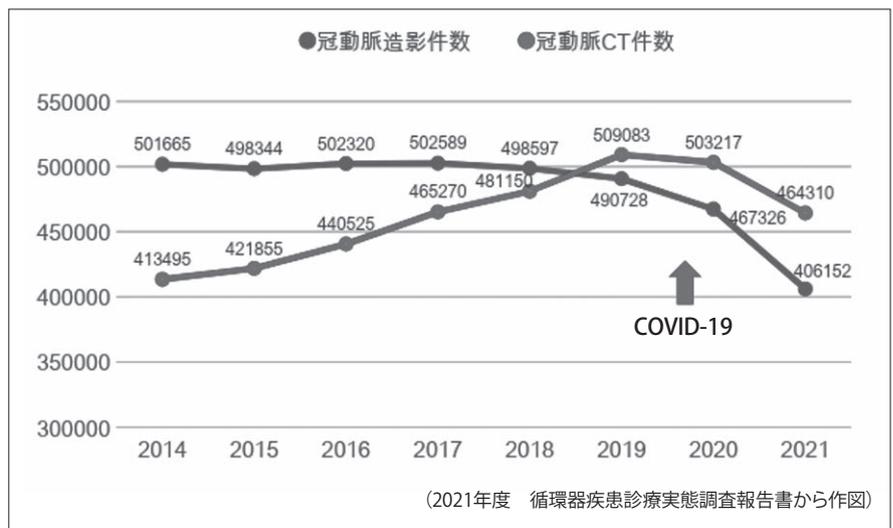


図1 冠動脈CT vs. CAG件数の推移

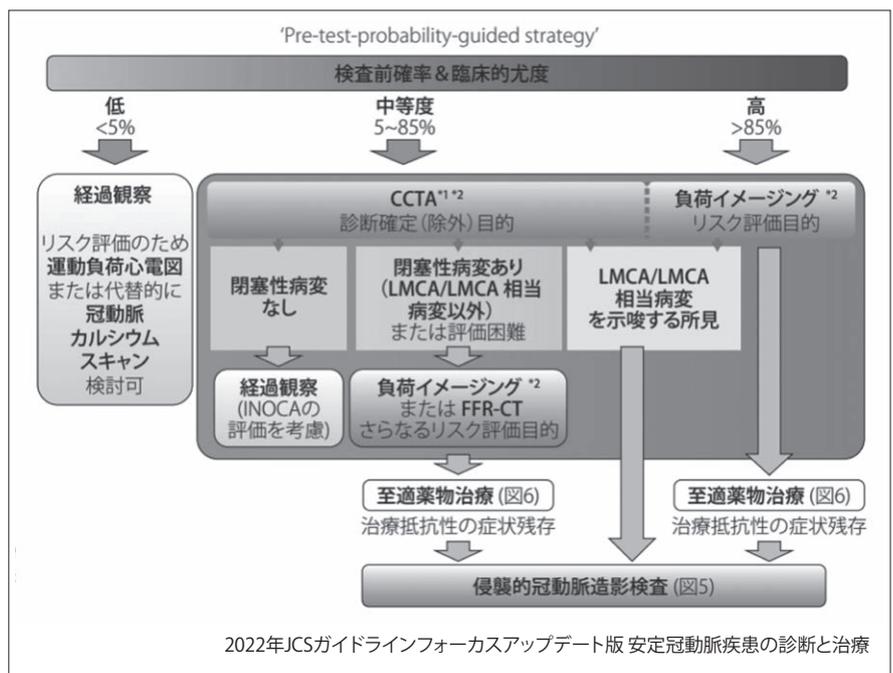


図2 非侵襲的画像検査の診断フロー (複数の画像検査が施行可能な施設)